

# 琉球大学学術リポジトリ

## 米国管理下の南西諸島状況雑件 日米琉諮問委員会 (代表会合第121回～140回) (7)

メタデータ	言語: 出版者: 公開日: 2019-02-12 キーワード (Ja): 日米琉諮問委員会, 審議概要, 勧告41, 土地区画整理事業, 土地改良事業, 琉球開発金融公社, 琉球政府移管, 調査団, 鈴木日銀監事, 金融調査団, 琉球開発公社, 沖縄の金融機構 キーワード (En): Recommendations 作成者: - メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/20.500.12000/43737">http://hdl.handle.net/20.500.12000/43737</a>

才一三六回

秘

注意

1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。  
2. 本電の主管変更その他については検閲班に連絡ありたい。

電信写

総番号(TA) 39861 主管  
 69年9月9日22時05分 ナハ 猪着 米北1  
 69年9月10日07時31分 本省 猪着 米北1

外務大臣殿 高瀬 (大使) 臨時代理大使 総領事 代理

諮問委員会(連)

ネ72号 平 (秘扱)

9日、ネ136回会合。

1. ショットより、米国側スタッフを9月末までに台湾へ出張せしめる予定なる旨および若し日琉スタッフにおいて同行の意図あらば米側において旅行日程等アレンジの用意ある旨述べた。(日本側スタッフのこの種出張は手続に困難がある旨ショットには既に通告済)

2. 勧告提案事項としてアドコムがリストアップしている項目は

(1) 8月28日付リスト1ページに記載

外務省

秘

注意

1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。  
2. 本電の主管変更その他については検閲班に連絡ありたい。

電信写

の2/項目

(ロ) 同リスト3ページ社会福祉小委員会所管の6項目

(イ) 同じく教育小委員会所管の5項目(以上公信ネ66号をもって送付済)

(ニ) 琉政提案の9項目(往電ネ69号の1)

(ホ) 往電ネ57号の2で通報の各政府ベースで検討中ないしは案文作成と見送ることに決定した11項目(当初12項だったが、このうち産業立地条件の調査項目は累次のDMJM調査報告書が作成されたことからこれを削除することとしたので11項目となった)の総計52項目に上ぼっている

上記52項目のうちいわゆるプロホ

-2-

外務省

秘

注意

1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
2. 本電の主管変更その他については検閲班に連絡ありたい。

電信写

○ ーガル・ステージにあるものは上記  
(木)の11項目と往電エフ1号の3で報  
告した琉政提議の3項目、計14項目  
である。

○ ショットは以上の現況につき説明  
のうえ、爾余の38項目につき各小  
委員会が提議作成に努力するよう懇  
請すると共に、上記(イ)および  
(木)の各項目につき意見交換を行  
なった。

(3)

極秘

アメリカ局長  
参事  
北米第一課長

公信第 72 号

昭和 44 年 9 月 11 日

外務大臣臨時代理

佐藤 栄作 殿

日米琉諮問委員会日本国政府代表

高瀬 侍 郎

機航制限撤廃のための学生運動等  
沖縄本土間定期旅客船の出入港作業  
妨害対策に 21.20 陳情

- 要処理
- 首席事務
- 南方
- 渉外調査
- 漁業
- 航空
- 科学協力
- 連統調整
- 調査
- 力夕夕
- 局庶務

44.9.12

今般別条のとおり 9 月 5 日付のとおり 琉球梅運社長  
平田忠雄より本使より 米琉代表に対し 陳情の次  
第あり。この 9 月 9 日 諮問委員会におき 問題  
の及ぼす影響及び 対策樹立につき 若干の困難の予想  
され。此等 鑑み 充分検討の上 態度を決定すに  
合意と見られ次第あり。

本件にかき 琉球梅運は 自己の責任に非ざる  
問題に 巻き込まれ 斗争の場となり 其 事態の進展を  
伺ふことは 梅運業者として 公共の安全に 21.20 の責  
任を充分 果し得る 場合とあり 得べし 困難の状況は  
これを察知 相 難しむべし ことと 見らる。

日本政府

3045

さらに船舶の出入港におき 暴行 航行中の公衆 万  
一 暴徒等が 新理の最前 例は 船体 船客等  
に hijack 等の危険に 対し 対策に 21.20 は  
一 梅運会社のみによら 得る ことと 非ざる ことと 見  
料され。本件の 取扱に 21.20 は 日米琉三者の  
間におき 充分の 打合せ 行い 対策を 21.20 と 密に  
とら 見らる。

21.20 は 本土港におき 事例の 存続次第あり  
出入港時におき 入域 検査 税関等の 手続  
に 21.20 は 21.20 人物の 入域の 抑止 及び 事態  
の 21.20 の 簡易化の 一律 背反と 如何に 21.20 取  
扱 船舶内の 公衆維持の 21.20 何等かの 対策 21.20 の  
可能性の 他 情報 蒐集 による 事前 措置 不能の  
や 等に 21.20 関し 関係 方面と 打合せの上 結果  
大 21.20 同 21.20 相 21.20 あり。

付属添付

本信写送付先 総理府総務長官

日本政府

1969年9月5日

日米琉路閣委員会

日本国政府代表 高瀬 侍 郎 殿

琉球海運株式会社

取締役社長 平 田 忠 義

陳 情 書

弊社の本土航路定期旅客船は、昨年3月より本年8月の間に

1・5回に亘り、全学連の渡航制限及び手続き撤廃斗争の為に、

出港時間の遅延、入港時接岸妨害及び船内坐り込み等、業務遂行に非常な妨害を受け多大の損害を被っております。

之までの個々の事件の概要については当時の新聞記事を添付致しますので御参照願います。

これ等全学連斗争は回を重ねる毎に、戦術は巧妙悪質化し規模は次第にエスカレートして寧ろ暴動化して来ております。過去の騒動で、未だ人身傷害の事故が一度も起つてないことは、不幸中の幸いであり、併し運輸業者にとってはこの威力行為による業務妨害は甚だ迷惑であり、このまゝ看過する訳には行かなくな

つて来ております。去る8月21日の東京港晴海埠頭に於ける、8百人の全学連威力行動から見ても、益々暴動化する怖れが多分にあり、将来一般乗船客、送迎人及び乗組員にも危害が及ぶのではないかと心配されます。

斗争開始初期の彼等は、斗争の相手は飽く迄“法”であり“権力”であるので、民間船会社や一般乗船客に迷惑をかけることは一切しないと言明しておりましたが最近、船会社も権力の末端であり、船を占拠して解放区化することは、斗争の成果を大ならしめる最も効果的な方法であると公言するよう変つて来ております。これは既に8月21日の晴海埠頭事件に具体的に表はれており、一民間企業の甘受し得る限界を遙かに超えており、今後人命の安全を保証し兼ねる段階に来ております。

来る佐藤首相訪米時期及び70年安保斗争等に向つて、彼等の行動は益々悪質化し、規模もエスカレートする事が予想されますので、旅客船の出入港に際しては、船客、関係官吏、送迎人及乗組員等の安全確保の為に、当局による積極的な予防措置を構じて頂き度くお願い致します。併せて渡航手続きに関連する下記の事項について何分の御検討を賜り、早急に特命措置を構じて頂き度く

陳情致します。

記

1. 本土/沖縄間のみを航行する定期旅客船の検査を廃止する又

はこれに替る措置

定期旅客船は本土特定港と那覇港間を往復しており、年間を通じ其の他の地域へ航行することが殆んどないので本土港及び那覇港入港時の検査を廃止する。

2. 日本人にして目的地が本土又は沖縄の何れかのみである者に対しては、検査を廃止する。

3. 日本人にして目的地が本土又は沖縄の何れかのみである者に対しては、本土港又は那覇港に於ける入城査証を行はない。

4. 本土港及び那覇港に於て入城査証を必要とする者の査証は、出城査証と同様陸上施設に於て行うこと。

以上

1. 1968. 3. 10 那覇入港 おとひめ丸	帰省学生3名 無許可上陸 布令144号違反で逮捕された
2. 1968. 7. 24 那覇入港 おとひめ丸	沖縄委学生約20名が上陸手続きも受けずに入城しようとした。 岸壁で琉大、沖大の反戦学生会議の学生約30名と機動隊と衝突した。 (出入管理庁長の要請で機動隊約100名出動) このため一般客の下船が約1時間おくれた。
3. 1968. 8. 22 鹿児島入港 おとひめ丸	ベ平連5名を含む10名が入管、税関の制止もふり切って強行上陸した。
4. 1968. 8. 23 東京入港 ひめゆり丸	沖縄委学生17名が入管、税関の制止もふり切って強行上陸した。
5. 1969. 3. 4 鹿児島出港 おとひめ丸	沖縄委学生約40名乗船



6. 1969. 3. 5 那覇入港 おとひめ丸	沖岡委学生約40名 サロン前通路に座り込んで入城手続きが出来ず一般客の下船が約1時間おくれた。 岸壁の支援隊は革マル派学生約30名
7. 1969. 4. 15 那覇出港 おとひめ丸	革マル派学生約24名 岸壁の支援隊約50名が乗船券も持たない者1名も不法乗船させた。 このため出港が約1時間おくれた。
8. 1969. 4. 18 東京入港 おとひめ丸	革マル派学生約24名 岸壁の支援隊が少かったため氣勢があがらず 最後まで残った9名もしぶしぶ手続きをうけて下船した。
9. 1969. 4. 24 東京入港 おとひめ丸	復帰協東京行動県民代表団305名 岸壁では支援隊として沖総連、沖実委、ベ平連、反戦青年旧三派、革マル、沖岡委、全学連などが約1,500名の抗議団が つめかけた。

10. 1969. 7. 17 那覇入港 おとひめ丸	沖岡委学生17名が入城手続き拒否 その内2名は最後まで拒否して上陸せず 翌7月18日鹿児島島へ引返した。 岸壁の支援隊は沖大反戦会議など 約100名。 このため一般客の下船は約30分おくれた。
11. 1969. 7. 20 那覇入港 おとひめ丸	沖岡委学生約50名 クランプと舷門を占拠したため入管税関 乗船出来ずこのため一般客の下船は約1時間 おくれた。 岸壁の支援隊は革マル派など約150名
12. 1969. 8. 2 東京出港 とくきよう丸	沖岡委学生約40名 その内1部はパスポートも乗船券も持たずに 不法乗船したため出港は大巾におくれた。 岸壁の支援隊は沖岡委、革マル、守核、 反帝学評、フロント系、日大、中大、全共闘など 反代々木系各派約300名



13.	1969. 8. 4 那覇入港 ヒクキヨク丸	沖岡委 革ミル派 約 25名 港外で入管 税関の乗船を妨害した。 タンカー船入港のため接岸はおこなわれな その間に沖検も完了。税関だけ接岸後 手続を再開した。 最後まで手続を拒否して船内に泊りて 翌日出港直前に下船した。 岸陸の支援隊 革ミル派など約 150名
14.	1969. 8. 19 那覇出港 ヒクキヨク丸	沖岡委 学生 約 20名 支援隊 約 50名
15.	1969. 8. 21 東京入港 ヒクキヨク丸	沖岡委 学生ほか 約 40名 岸陸の支援隊 約 800名 朝 8時に着いたにも関わらず接岸出来たのは 午後 4時前であった。

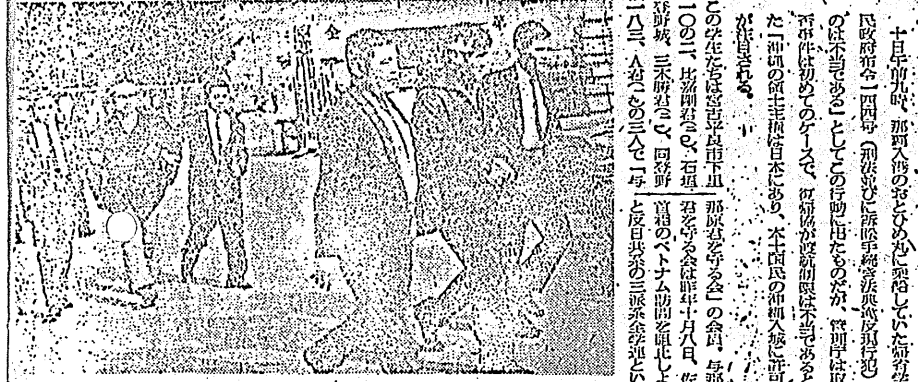
# 三学生が入域手続き拒否

那覇港



## 渡航制限は不当だ

### 出入管理布令違反で逮捕



十日午前、那覇港の港務局に到着した三学生が、入域手続きを拒否して上陸した。出入管理官に逮捕された学生は、那覇港に上陸した。三学生は、出入管理官の指示に従わず、上陸を拒否した。出入管理官は、三学生を逮捕し、出入管理官に連行された。三学生は、出入管理官の指示に従わず、上陸を拒否した。出入管理官は、三学生を逮捕し、出入管理官に連行された。

1968. 3. 10  
那覇入港  
おとひめ丸

三学生は、出入管理官の指示に従わず、上陸を拒否した。出入管理官は、三学生を逮捕し、出入管理官に連行された。三学生は、出入管理官の指示に従わず、上陸を拒否した。出入管理官は、三学生を逮捕し、出入管理官に連行された。

1968. 7. 24  
那覇入港  
おとひめ丸

# 学生、警官隊と衝突

那覇港

## 入域手続きを拒否

### ヘルメットがぶり帰省

二十日午前、那覇港の港務局に到着した三学生が、入域手続きを拒否して上陸した。出入管理官に逮捕された学生は、那覇港に上陸した。三学生は、出入管理官の指示に従わず、上陸を拒否した。出入管理官は、三学生を逮捕し、出入管理官に連行された。



那覇港、学生と警官隊との衝突



【本報東京二十三日電】二十三日午後、東京湾に於いて、米海軍の駆逐艦「USSスラ」は、日本の領海に侵入し、約八十八人の乗組員を乗せたまま、東京湾に突入した。米海軍は、この駆逐艦が、日本の領海に侵入したことを認め、これを遺憾の意を表明し、米海軍は、この駆逐艦を、日本の領海から追放した。米海軍は、この駆逐艦を、日本の領海から追放した。米海軍は、この駆逐艦を、日本の領海から追放した。

# 東京でも強行上陸

## 学生十七人が入域査証を強奪

### ③ 法務省対策に頭がかわる

AUG 24 1968

【本報東京二十三日電】二十三日午後、東京湾に於いて、米海軍の駆逐艦「USSスラ」は、日本の領海に侵入し、約八十八人の乗組員を乗せたまま、東京湾に突入した。米海軍は、この駆逐艦が、日本の領海に侵入したことを認め、これを遺憾の意を表明し、米海軍は、この駆逐艦を、日本の領海から追放した。米海軍は、この駆逐艦を、日本の領海から追放した。米海軍は、この駆逐艦を、日本の領海から追放した。

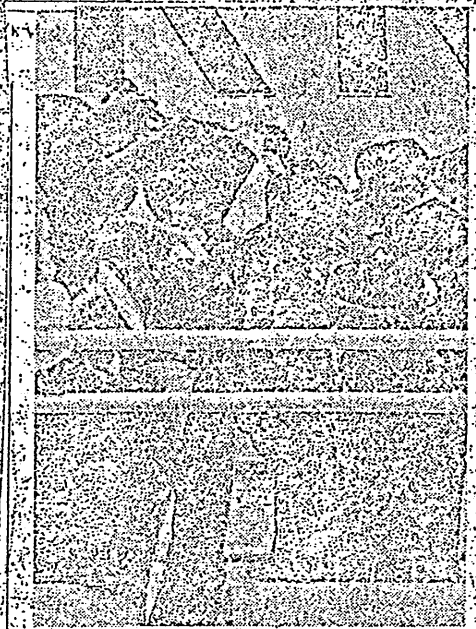
1968. 8. 23  
東京入港  
ひめゆり丸

正人 朝日新聞  
かみゆり丸  
ひめゆり丸  
ひめゆり丸

# 手続を拒否、上陸

## 全乗組の沖縄から来た17人

晴海ふ頭



【本報東京二十三日電】二十三日午後、東京湾に於いて、米海軍の駆逐艦「USSスラ」は、日本の領海に侵入し、約八十八人の乗組員を乗せたまま、東京湾に突入した。米海軍は、この駆逐艦が、日本の領海に侵入したことを認め、これを遺憾の意を表明し、米海軍は、この駆逐艦を、日本の領海から追放した。米海軍は、この駆逐艦を、日本の領海から追放した。米海軍は、この駆逐艦を、日本の領海から追放した。

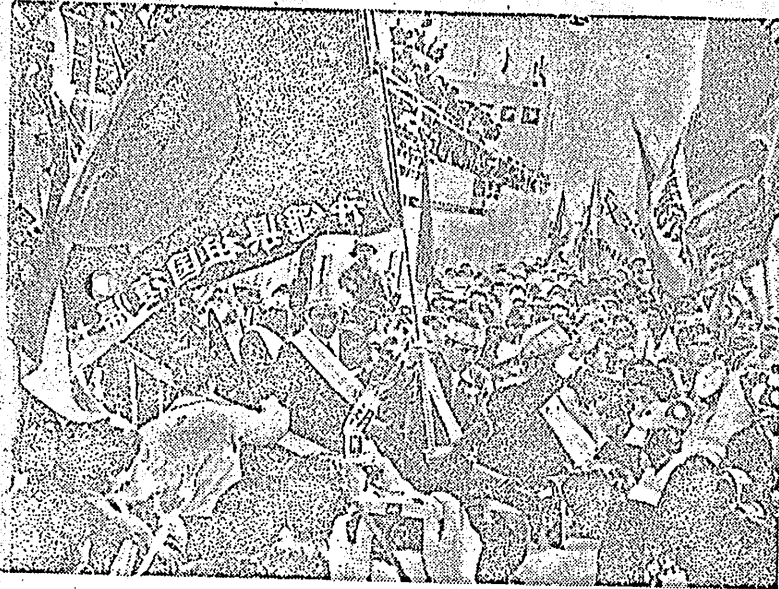
1968. 8. 23  
東京入港  
ひめゆり丸

正人 朝日新聞  
かみゆり丸  
ひめゆり丸  
ひめゆり丸









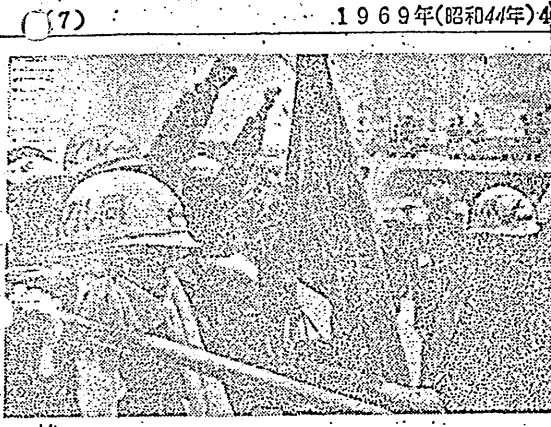
岸壁まで押し寄せた反日共派学生の出迎えの中を上陸する仲代代表たち—東京・府海で

# 全学連がなだれ込む 共闘もどく吹く風

【本紙記者の東京から】油断を許さず「〇〇」して一九六九年四月二十四日、東京府海で上陸した仲代代表団を、反日共派学生がなだれ込むように歓迎した。油断を許さず「〇〇」して一九六九年四月二十四日、東京府海で上陸した仲代代表団を、反日共派学生がなだれ込むように歓迎した。油断を許さず「〇〇」して一九六九年四月二十四日、東京府海で上陸した仲代代表団を、反日共派学生がなだれ込むように歓迎した。

1969. 4. 24  
東京入港  
ひめかり丸

【本紙記者の東京から】油断を許さず「〇〇」して一九六九年四月二十四日、東京府海で上陸した仲代代表団を、反日共派学生がなだれ込むように歓迎した。油断を許さず「〇〇」して一九六九年四月二十四日、東京府海で上陸した仲代代表団を、反日共派学生がなだれ込むように歓迎した。油断を許さず「〇〇」して一九六九年四月二十四日、東京府海で上陸した仲代代表団を、反日共派学生がなだれ込むように歓迎した。



ひめかり丸から下船、シブプレヒコニール工場前をあげる革マル派学生たち

1969年(昭和44年)4

## しんが手続の物 革マル系学生、晴海に上陸

【本紙記者の東京から】四月二十四日、東京府海で上陸した革マル系学生が、晴海に上陸した。しんが手続の物、革マル系学生、晴海に上陸した。しんが手続の物、革マル系学生、晴海に上陸した。

1969. 4. 18  
東京入港  
ひめかり丸







# Students Refuse to Leave Ship

NAHA, Okinawa—About 25 Japanese university students who refused to disembark from their ship Monday protesting "travel restrictions" between Japan and Okinawa, were still aboard the ship at Naha commercial port Tuesday.

The ship, Tokyo Maru, was to leave for Japan Tuesday noon.

One ship company official said the students will either have to be ejected from the ship by police or they will have to go back to Tokyo.

When the ship arrived at Naha, the students staged demonstrations aboard the ship, asking passengers to join them in delaying customs clearance proceedings in protest against regulations pertaining to travel between Okinawa and Japan.

The ship was delayed for a few hours before it docked as the students tried to discourage customs officials. Some of the indignant passengers exchanged hot word with the students.

Some 100 GRI police stood by at the port but no incidents occurred.

Meanwhile, about 170 labor union and leftist political groups arrived at the port aboard another boat from Tokyo Tuesday, and the pier was soon crowded with people carrying flags, placards and banners.

The Japanese representatives will also attend the three-day peace forum at Kanna beach.

Following their arrival, they marched along Highway One to the Government of the Ryukyus Plaza, where they held a rally demanding the reversion of Okinawa without nuclear bases, and the pullout of B52s and chemical weapons from the island.

## Bonesteel Off On Farewell Visit

SEOUL (Special) — Gen. C.H. Bonesteel III left the Republic of Korea Monday for a short visit to Southeast Asia as part of scheduled farewell activities before his retirement on Oct. 1.

In Vietnam, Bonesteel will include visits with Gen. Se Ho Lee, commander, ROK Forces Vietnam, and the ROK forces there.

1969. 8. 4  
那覇入港  
ヒキキヨク丸

1969年(昭和44年)8月3日 日曜日



とろきよう丸にパスポートなしで飛び乗る沖縄返航初級級級行動の学生(那覇港で)

## 渡航証明なしに乗船

### 東京 渡航制限撤廃闘争の学生

【東京三日電】東京から那覇へ向かう渡航制限撤廃闘争の学生が、那覇港に到着した。彼らは、渡航制限撤廃を要求し、渡航証明なしで乗船した。この行動は、渡航制限撤廃闘争の一環として行われた。学生らは、渡航制限撤廃を要求し、渡航証明なしで乗船した。この行動は、渡航制限撤廃闘争の一環として行われた。学生らは、渡航制限撤廃を要求し、渡航証明なしで乗船した。この行動は、渡航制限撤廃闘争の一環として行われた。

1969. 8. 2  
東京出港 ヒキキヨク丸







アメリカ局長  
参事官  
北米第一課長

公信第73号

昭和44年9月12日

外務大臣臨時代理

佐藤栄作 殿

日米琉諮問委員会日本政府代表

高瀬 侍



勸告案文「海上保安体制の整備」および  
「アジア民間航空要員養成センターの設  
置」の送付について

標記勸告案文を別添のとおり作成したので御検討ありたく貴  
見何分の儀至急御回示相煩わしたい。

なお、先に送付した「市町村行財政水準の向上」、「物品税  
制度の改善」、「河川管理の改善」および「水先制度の改善」  
の各勸告案文については既に月余を経過しおるものあるも未だ  
に何らの訓令に接しおらざるため委員会審議に支障を来しおる  
次第である。 ついては上記各案に対すとりまとめ方督促あ

共に中間的にでも何分の見解通報ありたい。

日 本 政 府

要処理  
首席事務官  
南方  
渉外  
漁業  
航空  
科学協力  
連絡調整  
調査  
カナダ  
局庶務



追つて、本月10日付朝日新聞は政府筋の発表として諮問委  
の改組云々の記事を大々的に報じているところ、この種報道他  
の幾多の事例と同様米琉政府部内に無用の動揺を与え、且又、  
委員会の活動に支障を来す虞あるものと存ぜられるので、往電  
第68号の4をもつて指摘したとおり政府筋よりこの種記事の  
出ることは厳に戒められたく関係当局に注意喚起方重ねて願  
いする。

付 属 添 付

本信写送付先 総理府総務長官

日 本 政 府

琉球列島高等弁務官に対する諮問委員会  
沖 縄 那 覇

73号  
44/9/12

首 題： 海上保安体制の整備

- 1 海上において、人命及び財産を保護し、法令の違反を予防し、捜査し、および鎮圧するための体制が確立されることは、広大な海域に亘って存在する沖縄諸島の住民にとつて極めて切実かつ重要な課題である。
- 2 沖縄においては、1957年から1966年までの10年間に貨物船、漁船あわせて836隻が海難事故に遭い、これに伴う死者及び行方不明者は326人に上つている。これに対する海難救助のための船舶としては、1964年日本政府援助による救難艇「ちとせ」(130GT 速力13ノット 航続距離900哩)があるが、荒天時又は3日を越える長期の行動は不可能であるので、1970年度において300トン級の救難艇を日本政府援助金によつて建造中である。従つて海難事故に際しては實際上米軍の救助隊の機動応援による救助活動に殆ど依存しているのが実情である。船舶漁船との通信につい

首 題： 海上保安体制の整備

ては警察局の離島航路旅客船に対する無線、琉球電々公社の一般商船に対する無線および琉球漁業無線協会の漁船に対する無線がそれぞれ取扱つている。

- 3 諮問委員会は、上記事情にかんがみ、沖縄における海上保安体制の整備に関して検討した結果、次のとおり意見の一致をみた。

- (1) 本土の海上保安機構を参考として海上における船舶の安全確保(安全の確保及び沿岸の維持)一保その他海上保安を責務とする中枢組織およびその支分部署について統一的機構の設定を検討する必要があること。海上における安全確保に関する業務は、一般に沿岸水域の巡視警戒、海難救助、水路の測量、海象観測、燈台その他の航路標識(航路標識、建設・保守・運用)一船の交通規制等の分野に亘るが、沖縄においてもこれらの事務(海上における捜査及び連絡)の全部又は一部を一元的かつ能率的に処理する機構が必要と認められること。
- (2) 沿岸水域の巡視警戒、海難事故発生の際の救助活動その他沿岸警備のために必要な巡視船、救難艇等の船舶の増設と合理的な配置を図る必要があること。
- (3) 警察、電々公社および漁業無線協会の無線がそれぞれの立場



首 題： 海上保安体制の整備

で船舶や漁船の無線を取扱っているが、海難救助のための無線通信網を海上保安機構直管の海岸無線局の設置によつて統一的に整備する必要があること  
(五位測定局を含む)

(4) 燈台その他の航路標識の増設や船舶の遭難信号自動発信機の搭載を義務化する等の救難強化措置を積極的に推進する必要があること

(5) 海上保安の業務に従事する職員の専門的技術的研修を日本政府の協力を得て実施することが望ましいこと

(6) 海難事故に際しての航空捜索および救助については米軍救助部隊その他米国関係機関の海上捜索および救助については日本政府海上保安庁および米海軍救助部隊の協力援助がそれぞれ従来同様必要と認められるので、琉球政府においては常時日米両国政府関係機関と連絡を密にし、事故の発生に際しては直ちに緊密な連繫の下に救難活動が実施されるよう措置することが望ましいこと。

4 よつて、諮問委員会は、高等弁務官が本件の実現について適切な措置をとるよう勧告する。

琉球列島高等弁務官に対する諮問委員会

沖 縄 那 覇

73号

44/9/12

首 題： アジア民間航空要員養成センターの設置について

1 最近の航空輸送事業の発展はめざましく就航機数の著しい増加、各種新型機の登場は航空要員の量的、質的不足に拍車をかけている。

2 しかるにアジア地域には上述の事態に即応する航空要員の養成に十分な機関が存在せず、各国とも将来の要員不足の解消に苦慮している

ところであり、他地域の施設に要員養成を委託するため多額の外貨の流出を余儀なくされており、アジア地域において施設の完備した民間航空要員養成センターの設置が強く要望されている。

3 沖縄諸島は、その地理的位置、地形その他の条件においてこのような施設を設置するのにきわめて好条件を備えている。したがつて公害防止、土地補償等について十分な配慮を払いながらこの種施設を設置することは、単に体質改善を迫られている沖縄経済の進展に寄与するのみならず、そのアジア地域国際社会において果た役割にかんがみ、沖縄住民に強い自信と自覚を与えることにもなると考えられる。

首 題： アジア民間航空要員養成センターの設置について

4 諮問委員会は、上記の事実について検討した結果、民間航空要員養成センターの設置に必要な措置が速やかにとられ、その設置・運営に関し、関係政府が出来る限りの好意的配慮を払うことが必要であるとの合意に達した。

5 よつて、諮問委員会は、高等弁務官が本件の実現につき適切な措置をとるよう勧告する。